

第 6 章 自然と調和する住みよいまち

まちづくりの 目標	まちなかにみどりがあふれ、そこに人々が集い、思わず歩きたくなる、自然と調和した安全で住みよいまちをめざします。
--------------	---

第 1 節		土地利用		地域の特性を活かし自然と調和した街づくり （土地利用）が進められている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と 回答した人数	満足度	力を入れてほしいと 回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				354人	15.3%	310人	13.4%
関係 所属	土地利用推進課、都市計画課、企画総務課						
指標名	土地利用に関する施策の満足度（平均値） 令和7年度から令和10年度までの平均値が20.0%以上（前期基本計画期間中の最高値以上）となることをめざす。						
単位	R1-5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R7-10年度目標	進捗状況
%	15.6	15.3				20.0	計画どおりでない

事業目標の達成状況		単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
6-1-1 計画的かつ合理的な土地利用の推進	組合施行の土地区画整理事業地区内の住宅戸数 令和10年度までに1,250戸をめざす。	戸	184	659	1,250	計画どおり
6-1-2 土地利用推進エリアにおける計画的な土地利用の推進		企業	0	0	12	計画どおり
6-1-3 所沢らしい景観まちづくりの推進	とことこ景観資源の件数 令和10年度までに10件の増加をめざす。	件	238	238	248	計画どおりでない
6-1-4 基地返還と跡地利用の促進		件	2	2	2	計画どおり
基地返還に関する要望実施件数 毎年度、2件をめざす。						

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況	
○土地利用転換のうち、組合土地区画整理事業中の北秋津・上安松地区（住居系）、下安松東地区（住居系）、三ヶ島工業団地周辺地区（産業系）については、円滑な事業推進のため、組合に対し、事業への支援・助言を行った。 ○北秋津・上安松地区内のあきつの杜では、緑地保全や安全管理のため、緑地整備工事を行った。 ○上安松・下安松西地区（住居系）では、組合土地区画整理事業の実施に向け、周辺自治会等を対象に説明会を開催し情報提供するとともに、都市計画に関する国との協議を開始した。 ○関越自動車道所沢インターチェンジ周辺地区（産業系）では、組合土地区画整理事業の実施に向け、組合設立準備会の結成及び事業協力者選定への支援を行った。 ○景観施策については、策定から10年を迎えた「ひと・まち・みどりの景観計画」を令和8年1月に改定し、本市の土地利用状況等に応じた内容を反映させた。 ○防衛施設周辺整備全国協議会、埼玉県基地対策協議会を通じて米軍所沢通信基地の返還を要請した。また、所沢市基地対策協議会において、相模原市の米軍基地に関する研修会を開催し、他自治体の返還運動に関する知識と理解を深めた。 ○「土地利用に関する施策の満足度」については、土地利用転換は市街化調整区域から市街化区域になった後に宅地や公共施設などの整備が行われることから時間を要する。このため個々の事業目標は達成されても、住民や企業による経済活動などが、順次始まって効果が見えてくるものであり、施策の満足度の評価として現れるには時間を要する。 ○「とことこ景観資源の件数」について、市民からの申請や推薦によって登録するものであるが、想定を下回っているため件数が伸びていない。	

今後の方向性・課題	
○土地利用転換のうち、事業中の組合土地区画整理事業については、引き続き組合に対し、支援・助言を行う。 ○上安松・下安松西地区では、早期の事業実施に向け、都市計画の手続きを進める。 ○関越自動車道所沢IC周辺地区では、国との協議の長期化が想定されるので、組合設立準備会とも協力しながら協議に取り組む。 ○事業実施の際には、既存緑地の保全や宅地内の緑化などに積極的に取り組む。 ○景観審議会の議論を踏まえ、地域の景観特性に応じた景観誘導を図るため、景観軸や景観核について景観づくりの方針を検討し、引き続き景観計画の見直しを進める。また、とことこ景観資源は、引き続き活用の方針について検討を進める。 ○今後も引き続き要望活動を行い、米軍所沢通信基地の全面返還の早期実現を目指す。 ○「土地利用に関する施策の満足度」については、引き続き、計画的かつ合理的な土地利用の推進など、市民の生活環境や経済活動などに資する個々の取り組みの推進に努め、満足度のアップを目指す。 ○「とことこ景観資源の件数」については、目標の達成に向けて、景観展示会等を通じて市民への周知を図る。	

評価日	R8.7.29	記入者職氏名	経営企画部次長 並木 茂幸 街づくり計画部次長 増子 雄一、沼倉 貴雄
-----	---------	--------	--

第 2 節		市街地整備		所沢駅周辺をはじめとしてにぎわい創出に向けた整備が進んでいる			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				1,065人	46.2%	408人	17.7%
関係所属	市街地整備課、土地利用推進課、都市計画課、狭山ヶ丘区画整理事務所、建築指導課						
指標名	所沢駅の1日平均乗降客数 令和10年度までに118,000人以上をめざす。 (所沢駅周辺で行っている市街地開発事業によって作られる集客性の高い施設に訪れる人数を現状値に加えて目標値を設定)						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
人	101,123	115,624				118,000	計画どおり

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
6-2-1 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進	人	8,206	8,306	8,700	計画どおり
事業地区を含む周辺の居住人口（御幸町・東町・日吉町・東住吉） 令和10年度までに8,700人をめざす。					
6-2-2 安心・安全に暮らせるまちづくりの推進	ha	265	265	290	計画どおり
土地区画整理事業による防災性能の向上を進める面積 令和10年度までに290haをめざす。					
6-2-3 市街地整備の適正な誘導（良好な市街地整備の推進）	地区	36	34	36	計画どおり
地区計画・建築協定等の策定地区数 令和10年度までに36地区をめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安全・安心に通行できる道路の整備や電線地中化を進めた。 ○所沢駅東西市街地の一体化や、駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした「所沢駅ふれあい通り線」について、西武鉄道株式会社により鉄道敷地内の協定工事が行われた。 ○旧町地区における「居心地がよく歩きたくなる」街なかづくりに向け、エリア価値の向上や地域の活性化を図るため、地域主体のエリアマネジメント組織となる「ところざわエリアプラットフォーム」（以下「エリプラ」という。）が令和8年3月に設立された。 ○東町10番地区優良建築物等整備事業については、組合と調整しながら国庫補助金の活用に向けた申請を行った。 ○上安松・下安松西地区（住居系）では、組合土地区画整理事業の実施に向け、周辺自治会等を対象に説明会を開催し情報提供するとともに、都市計画に関する国との協議を開始した。 ○地区計画については、フラワーヒル地区地区計画を令和7年6月20日に都市計画決定した。 ○令和7年度に建築協定4地区が期間満了を迎えたが、1地区は地区計画に移行、1地区は継続、2地区は失効した。令和8年3月末時点で、地区計画は1地区増の24地区、建築協定は3地区減の8地区、街づくり協定は増減なしの2地区となった。

今後の方向性・課題
○所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安全・安心に通行できる道路の整備や電線地中化を進め、所沢駅周辺に集まる来街者を周辺地区へ回遊するよう促進する。 ○所沢駅東西市街地の一体化や駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした「所沢駅ふれあい通り線」の早期開通を目指し整備を進める。 ○東町の再開発事業で生み出されたファルマン通り交差点歩道空間について、引き続き、中心市街地のにぎわいや魅力向上のため、社会実験やイベント等の会場として貸出しを予定していることから、適正に維持管理を実施する。 ○令和8年度はエリプラによる「（仮称）ところざわ未来ビジョン」の作成に向け支援し、パブリックスペース等を活用した魅力ある街なか空間の創出を進める。 ○東町10番地区優良建築物等整備事業については、引き続き国庫補助金を活用しながら、組合に対し、支援・助言を行う。 ○上安松・下安松西地区では、早期の事業実施に向け、都市計画の手続きを進める。 ○令和8年度は、令和7年度に期間満了となった建築協定1地区について、継続意向に合わせた手続の調整を行う。また、市街化区域への編入を目指す上安松・下安松西地区について、地区計画の都市計画決定に向けた手続を進める。

評価日	R8.7.29	記入者職氏名	街づくり計画部次長 増子 雄一、沼倉 貴雄
-----	---------	--------	-----------------------

第 3 節		道路		所沢市内の道路環境は整備されている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				637人	27.6%	726人	31.5%
関係所属	道路建設課、道路建設課、道路維持課、道路維持課						
指標名	道路に関する施策の満足度 令和10年度までに現状値以上をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	26.7	27.6				現状値以上	計画どおり

事業目標の達成状況		単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
6-3-1 幹線道路の整備推進	幹線道路の整備状況 令和10年度までに73.0%以上をめざす。	%	72.0	73.5	73.0	計画どおり
6-3-2 生活道路の整備推進						
生活道路の整備推進	令和10年度までに728mをめざす。	m	-	448	728	計画どおり
6-3-3 歩行者・自転車環境の整備推進						
自転車レーンの整備着手路線数	令和10年度までに2路線をめざす。	路線	-	0	2	計画どおりでない
6-3-4 道路環境の維持						
橋りょう等長寿命化修繕の箇所数	令和10年度までに8橋以上をめざす。	橋	2	3	8	計画どおり

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

- 都市計画道路北野下富線4工区の用地取得及び立体交差区間における橋りょうの下部工事を進めた。
- 道路の優先整備計画に基づき、市道3-5号線外2路線において、延長448メートルの拡幅整備を実施した。
- 令和7年度は通学路の安全確保に向けた取り組みを継続的に実施するため、交通事故の多い危険箇所における道路安全施設の設置を優先的に行ったことから、自転車レーンの整備は次年度以降に見送った。
- 橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、天明橋と316号橋、令和6年度から繰り越した松井橋の修繕を実施したほか、令和5年度の点検結果が健全度Ⅲ判定となっている地藏橋・413号橋・勢揃橋歩道橋について、修繕詳細設計を実施するなど、橋りょうの維持管理に努めた。

今後の方向性・課題

- 都市計画道路北野下富線の立体交差区間を令和11年度末の供用開始に向けて整備を進める。また、所沢駅ふれあい通り線における市道1-525号線から「くすのき台交差点」までの区間の交差点2箇所について、令和14年度末の完成に向けて用地取得を進める。
- 歩行者の安全性及び交通の利便性等の向上を図るため、歩道の整備及び狭あい道路の拡幅、交差点の改良等を進める。
- 道路における歩行者・自転車環境の整備を推進するため、市内の県道と国道を管理している埼玉県川越県土整備事務所及び道路交通を担当する埼玉県警察とも連携を図り、自転車レーンの整備延伸に努め、誰もが通行しやすい空間を創出していく。
- 法定定期点検の結果に基づき長寿命化修繕計画の見直しを行い、予防保全の観点から対象となる橋りょう修繕を計画的に実施する。

評価日

R8.7.29

記入者職氏名

建設部次長 吉田 進一

第 4 節		交通政策		鉄道・バス路線が充実していて出掛けやすい			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				811人	35.2%	684人	29.6%
関係所属	都市計画課、防犯交通安全課						
指標名	交通政策に関する施策の満足度 令和10年度までに53.0%以上をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	34.7	35.2				53.0	計画どおりでない

事業目標の達成状況	単位	R5年度現状	R7年度実績	R10年度目標	進捗状況
6-4-1 交通政策の推進と公共交通の充実 市内の地域公共交通（バス）年間利用者数 毎年度、10万人の利用者数の増加をめざす。	千人	9,260	9,645	9,760	計画以上
6-4-2 鉄道輸送の利便性の向上 市内の鉄道駅の1日あたりの合計乗降客数 毎年度、2千人の乗降客数の増加をめざす。	千人	384	未確定	394	計画どおり
6-4-3 駅の安全性・利便性の向上 西所沢駅西口改札口開設事業の進捗度 西所沢駅西口改札口の早期開設をめざす。	-	設計	実施設計	現状値以上	計画どおり

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

- ところバスは令和6年10月に実施した路線改編が定着してきたことにより、全体の利用者が40万人を超え過去最高となった。
- 高齢者向けの「シニアスマホ学園」と連携し、学生ボランティアの協力を得ながらところバスの主たる利用者である高齢者にところバスロケーションシステムを利用して頂けるよう周知・利用促進を図った。
- 柳瀬地区・富岡地区のところワゴンについて、実証運行を終了し、令和8年3月から本格運行を開始した。
- 柳瀬地区では、地域の意見や利用実態に合わせたルートの見直しや停留所の新設・移設の他、ダイヤの見直しを実施した。また、富岡地区では、ネオポリス地域で発生している後続便の解消を図るため北岩岡ルートとネオポリスルートの見直し、並木通り団地で発生している後続便の解消を図るため、新たに「並木通り団地経由ルート」を新設した他、運行車両を2台から3台体制に変更するなどの対策を実施した。
- 西所沢駅西口改札口の整備に向けて駅舎の実施設計が完了した。
- 西所沢駅西口改札口の整備に向けて駅前広場の設計が完了した。
- 西所沢駅西口改札口の利用者を対象とした送迎車用転回広場の工事が完了した。
- 転回広場から西所沢駅までの経路として用地買収した県道所沢武蔵村山立川線の歩道を県が拡幅工事した(継続中)。

今後の方向性・課題

- ところバスについて、利便性を高めるためダイヤの改善とともに運行ルートの見直しに向けた検討を進める。また、引き続きバスロケーションシステムの周知を進め、利用促進を図っていく。
- ところワゴンについて、三ヶ島地区において地域の意見や利用実態等に基づいたルート・ダイヤを目指し改編に向けた手続きを進める。
- 西所沢駅西口の駅舎工事に着手する。
- 西所沢駅西口の駅前広場及び県道に接するたまり場の工事に着手する。
- 西所沢駅西口に接道する市道の交通規制を実現化する取り組みを進める。
- 西所沢駅西口に接道する市道の歩道拡幅の交渉を進める。

評価日	R8.7.29	記入者職氏名	市民部次長 山屋 貴裕 街づくり計画部次長 増子 雄一
-----	---------	--------	--------------------------------

第 5 節		水道		安全な水を安定して供給している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				1,369人	59.3%	434人	18.8%
関係所属	給水管理課、経営課、水道建設課						
指標名	着水井等の耐震化率 令和10年度までに100%をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	61.8	100				100	計画どおり
指標名	経常収支比率（水道事業会計） 令和10年度まで100%以上を維持することをめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	106.64	98.83				100以上	計画どおりでない

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
6-5-1 経営基盤の強化・適切な資産管理による経営の効率化	億円	40	51	30	計画以上
現金残高（水道事業会計） 毎年度、30億円以上をめざす。					
6-5-2 水資源の確保と有効利用	万㎡/年	483	502	350	計画以上
地下水の揚水量 毎年度350万㎡以上をめざす。					
6-5-3 安全な水の安定供給	k m	29.8	47.1	78.4	計画どおり
水道管の更新延長 令和10年度までに78.4 k mをめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況

○現金残高については、年度末に完成した工事の影響により、未払金が増加したことなどの要因で、年度末時点の手元の現金が増え目標値を大きく超えた。未払金を差し引いた実質の現金残高も、目標値の30億円を達成した。

○地下水の揚水量については、年間総配水量が計画値より増加したため、目標値を大きく超えた。

○水道管更新延長は47.1kmであり、令和7年度時点での進捗率については60.1%と概ね計画通り進められている。

○経常収支比率については、人件費や物価の高騰により修繕費、委託料が増加するとともに、施設の更新工事費の増加に伴い減価償却費が増加したことなどにより支出が増え、目標を達成することができなかった。

今後の方向性・課題

○今後は耐用年数を経過した水道管が増加することから、安全な水を安定的に供給するとともに災害に強い施設とするため、漏水リスクのより高い老朽管の更新を進めていく。

○経常収支比率については、令和8年度に料金改定を実施したため、改善を見込んでいる。

評価日	R8.7.22	記入者職氏名	上下水道局次長 加藤 孝雄
-----	---------	--------	---------------

第 6 節		下水道		生活環境面で下水の処理に満足している			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				1,227人	53.2%	358人	15.5%
関係所属	下水道維持課、経営課、下水道整備課						
指標名	重要な下水道管路等の耐震化率 令和10年度までに100%をめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	55	94				100	計画どおり
指標名	経常収支比率（下水道事業会計） 令和10年度まで100%以上を維持することをめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	101.88	99.34				100以上	計画どおりでない

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
6-6-1 経営基盤の強化・適切な資産管理による経営の効率化 現金残高（下水道事業会計） 毎年度、20億円以上をめざす。	億円	35	29	20	計画以上
6-6-2 生活環境の改善と公共用水域の水質保全 下水道整備済面積の割合 令和10年度までに60.0%をめざす。	%	0	0	60	計画どおり
6-6-3 災害に強い下水道整備の推進 雨水調整池の耐震化工事完了箇所数 令和10年度までに4箇所の増加をめざす。	箇所	1	3	5	計画どおり
6-6-4 下水道施設の計画的な老朽化対策 下水道管渠の更生・布設替工事延長（累計） 令和10年度までに13,431mをめざす。	m	3,874	5,822	13,431	計画どおり

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○重要な下水道管路の耐震化工事を2件実施した。 ○現金残高については、年度末に完成した工事の影響により、未払金が増加したことなどの要因で、年度末時点の手元の現金が増えたため目標値を超えた。 ○下水道整備済面積の割合については、第2次市街化調整区域下水道整備計画の前期計画の期間が令和8年度から12年度までであるため、令和7年度は工事発注の準備として設計業務委託を3件発注した。 ○雨水調整池の耐震化工事完了箇所数については、令和7年度は令和9年度に発注を予定している工事の準備として設計業務委託を1件発注した。 ○下水道管渠の更生・布設替工事延長については、令和7年度は883mの工事を実施した。 ○経常収支比率については、流域下水道維持管理負担金単価が32円/㎡から38円/㎡に改定されたことなどにより支出が増え、目標を達成することができなかった。

今後の方向性・課題
○第2次市街化調整区域下水道整備計画の前期計画が令和8年度より始まることから、生活環境の改善と公共水域の水質保全を図るため、計画的に工事を実施していく。 ○経常収支比率については、令和8年度に使用料改定を実施したため、改善を見込んでいる。

評価日	R8.7.22	記入者職氏名	上下水道局次長 加藤 孝雄
-----	---------	--------	---------------

第 7 節		住宅・住環境		安心・安全で住みよい住環境が形成されている			
施策に対する市民満足度 ・ 要望度				満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「令和 7 年度所沢市市民意識調査」の結果 ※ 回答数： 2,307 人				1,069人	46.3%	426人	18.5%
関係所属	住宅政策課、建築指導課						
指標名	住宅・住環境に関する施策の満足度（平均値） 令和7年度から令和10年度までの平均値が50.0%以上（前期基本計画期間中の最高値以上）となることをめざす。						
単位	R5年度現状	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績	R10年度実績	R10年度目標	進捗状況
%	44.7	46.3				50	計画どおりでない

事業目標の達成状況	単位	R5年度 現状	R7年度 実績	R10年度 目標	進捗 状況
6-7-1 安心・安全で良好な住宅や住環境整備の推進	件	250	665	500	計画以上
長期優良住宅・低炭素建築物等計画の認定件数 令和10年度までに250件の増加をめざす。					
6-7-2 適正な公営住宅の管理・運営	%	87.7	87.1	92.7	計画どおり
市営住宅の入居率 令和10年度までに5%の増加をめざす。					
6-7-3 住生活の安定と質の向上	件	42	21	50	計画どおりでない
マンション管理無料相談会における相談受付件数 令和10年度までに50件をめざす。					

SDGs への貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

節の基本方針への取り組み状況
○長期優良住宅の件数601件、低炭素建築物等計画の件数64件の計665件について認定を行い、目標値を達成した。 ○市内の住宅等の耐震化を図るため、一戸建て住宅の耐震診断2件、共同住宅の耐震診断1件、一戸建ての耐震改修1件に対して補助金を交付した。 ○家賃等滞納に関わる収納指導業務において、市と埼玉県住宅供給公社（管理代行業者）で連携し納付督促等を実施した。 ○「所沢市公共施設長寿命化計画」及び「所沢市営住宅等長寿命化計画」に基づき、愛宕山団地1号棟の施設改修工事を実施した。 ○市営住宅の入居率については、適正な管理・運営を実施することにより、高い水準で維持している。 ○「所沢市マンション管理適正化推進条例」に基づき、管理組合に対する管理状況の届出の周知を行った。 ○管理組合に対して「マンション管理アドバイザー派遣制度」、「専門家団体による重点支援事業」を実施した。 ○マンション管理適正化法に基づく「管理計画認定制度」による認定を進めた。 ○住宅確保要配慮者のニーズに応じて入居中の安否確認や見守り等を行う居住サポート住宅の認定制度を開始した。 ○マンション管理無料相談会の相談実績が少ない原因として、マンション管理アドバイザー派遣制度の利用が進んでいることが想定される。

今後の方向性・課題
○長期優良住宅・低炭素建築物等計画の認定制度の概要等を、窓口でのパンフレットの配架や、ホームページへの掲載を行い、積極的に周知していく。 ○住宅の耐震診断・耐震改修の補助については、共同住宅においても耐震化の促進が必要であることから、「マンション管理適正化支援事業」との連携強化により意識付けを図っていく。 ○市営住宅については、建設から50年を経過するなど団地の老朽化が進んでいることから、市営住宅の長寿命化計画を策定し課題を整理しているところであり、今後は建替えや集約等の再整備について整理・検討を進めていく。 ○本市の住宅関連施策を効果的に推進していくため、所沢市住生活基本計画について全国計画や県計画の改定内容を踏まえながら令和8年度に改定する。 ○指標については、市民のニーズやニューノーマルの生活様式に対応した住宅や住環境の整備を推進するとともに、近年社会的な課題となっている空き家や分譲マンションの適正管理、住宅セーフティネットなどの充実を図ることで満足度のアップを目指す。

評価日	R8.7.29	記入者職氏名	街づくり計画部次長 増子 雄一
-----	---------	--------	-----------------